

■さあ、私たちと共に！

このたび私たちは、大震災がひとたび起きれば、多くの人命が奪われ、社会は混乱し、不安な毎日を過ごさなければならないことを実体験しました。

このような災難が二度と起こらないよう、今こそ御本仏大聖人の教えにしたがい、邪宗・謗法を捨てて、南無妙法蓮華経の正法に帰依していくべきです。

あなたの勇気と決意が、あなた自身と、あなたの家族をはじめ、多くの人々を救つていくことになるのです。私たち日蓮正宗僧俗と共に、災害のない平和な社会を実現するために、祈り、行動していきましょう。

「立正安國論」

汝早く信仰の寸心を改めて速やかに實乗の一善に帰せよ。

然れば則ち三界は皆仏國なり、仏國其れ衰へんや。十方は悉く宝土なり、宝土何ぞ壞れんや。國に衰微無く土に破壊無くんば身は是安全にして、心は是禪定ならん。此の詞此の言信すべく崇むべし。（御書二五〇〇）

あなたは一刻も早く邪法への信仰心を改めて、すみやかに法華真実の一經に帰依すべきである。そうすれば、この世の中は仏國となり、仏國は衰微することがない。また、十方はすべて宝土となり、宝土は破壊されることがない。かくして、國に衰微なく、国土が破壊されることはなくなければ、人々の身は安全となり、心は安定するであろう。（仮の）言葉を信じ崇めるべきである。

日蓮正宗では、東日本大震災にあたり、被災者の方々の生活と被災地の復興に役立てていただきましたため、全国の本宗僧俗から寄せられた義援金を各被災地官庁にお届けいたしました。

また、平成23年4月15日には、日蓮正宗總本山大石寺において、御法主上人の大導師のもと、東日本大震災殉難者の慰靈のための追善法要が営まれました。

法華経の大良薬を以て
此の大難をば治すべし

悲惨な災害を繰り返さないために――

未曾有の大災害

平成二十三年三月十一日、東北地方太平洋沖を震源として大地震が起きました。この地震は大津波を引き起こし、多くの人命や家屋・財産を奪いました。このような悲劇は二度とあつてはなりません。

人間社会と国土

日蓮大聖人は『瑞相御書』に、

「夫十方は依報（人間）と依報（環境・國土）は、身と影のようによつて一体不可分であり、互いに影響し合う関係であることを明かされています。したがつて、人々の欲望や争いの心など、人間の生命の渦りが広がれば広がるほど国土は乱れ、災害が起こることになるのです。

災難の原因

今からおよそ七五〇年前、鎌倉時代に起つた大地震で、人々が塗炭の苦しみに喘ぐ姿を目の当たりにされた大聖人は、『立正安國論』を著されました。

『立正安國論』には、

「世皆正に背き人悉く悪に帰す。故に善神國を捨て、相去り、聖人所を辞して還らず。是を以て魔來たり鬼來たり、災起こり難起こる」（御書二三四六）

と、災難の根本原因是、人々が誤った教えに誑かされ、正法に背く故に、諸天善神の働きが失われ、人々を苦しめる悪鬼が乱入し、災いが起ると明かされています。

災難を止めるには

大聖人は、この災難を止める方途について、

「早く天下の静謐を思はゞ須く國中の誇法を断つべし」（立正安國論・御書二四七）

「法華経の大良薬を以て此の大難をば治すべし」（法華初心成仏抄・同一三一三）

と、何よりも国中に蔓延している邪宗・誇法を断ち、末法の法華経、すなわち大聖人の南無妙法蓮華経を信仰する以外にないと説かれています。



震災翌日の宮城県気仙沼市・福量寺付近